

| 整理番号 | 事業名                       | 理由  | 担当課          |
|------|---------------------------|---|--------------|
| 1    | 防災                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の村上の水害を教訓に、狭いエリアでの防災意識の高まり、オリジナルのハザードマップの作成に力を入れるべき。</li> <li>・防災力の強化は重要課題だと思う。ただ、西区の中でも地域ごとに状況が異なるため、自分のこととして受け止めることが難しいのかもしれない(ここは大丈夫だろうと思う、自分は大丈夫だと思う)。それを地域問題として取り組むことは、周りを良く知ることに繋がるのではないと思う。</li> <li>・区民に対し、防災・減災の心得、今必要なことについての動画作成・配信を行い、命を守る意識の向上を目指し、お役所的ではなく、庶民感覚で楽しく取り組み学べるものとし、誰もがいつでも見れるようにする。</li> <li>・現状の天災の多様化を考え、従来の考えの変更をしてほしい。</li> <li>・最近の日本に多い豪雨災害への備えについて真剣に考えて欲しい(先日の東区、中央区での冠水状況などを振り返って)。</li> </ul>   | 総務課          |
| 2    | 空き家                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家を登録しマッチングする。</li> <li>・空き家予備登録制度の創設に取り組んでほしい。生前中に空き家バンクに予備登録する仕組みがあるといい。空き家にしたくない思いとそれを利活用したい者とのマッチングが人口減少対策として重要になるのではと考える。市街化調整区域にある農村地域では農地を借りて新規に農業経営を目指すとする若者にとって有益な制度となるのでは。</li> <li>・空き家の有効活用を考え、サテライトオフィスやワーケーションとしての利用はできないか。その結果として西区人口の増加を目指す。</li> </ul>  |              |
| 3    | 若者のソーシャルビジネス応援事業          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや若者による社会課題解決のプロジェクト(ソーシャルビジネス立ち上げ)を公募し、支援する(資金・人材・学習機会などの提供)。西区は大学生も含め、若い世代が比較的多く居住している。若い世代の移住や定住化を促進するとともに、「西区ではやりたいことができる」という土壌づくりのため、西区の暮らしやすさの向上につながるプロジェクト(できればビジネス化)を応援する。既存活動(事業)のステップアップでも良い。</li> </ul>  |              |
| 4    | ヤングケアラー                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の状況や90・60について知りたい。</li> <li>・テレビ等で耳にするが、本当のところを知らないため勉強したい。</li> <li>・子ども食堂は各地で実施しているが、その陰でとても困っている子どもがたくさんいると考える。貧困、介護により子どもの将来に「生きがい、やりがい、夢」が消えてしまうのは地域、新潟市の将来にとってマイナスと感じる。地域では対応しづらいヤングケアラーについて行政に取り組んで欲しい。子供たちが豊かに学び育つ西区であってほしい。</li> <li>・マスコミ等でも多く取り上げられている問題であり、1件1件状況が違い難しい問題ではあるが、そういった境遇にある子どもたちが少しでも楽になる様できる事を考えて実行していかなければならないと思う。</li> <li>・現在西区に在住している学生で、家族の世話について悩んでいても相談する人がいない人たちにとって頼れる場を作るべきだと考えるため。令和2年度の厚生労働省の調査によると、回答した中学生のうち約17人に1人がヤングケアラーであると明らかになり、実際にはこの数値以上にこの問題に苦しむ学生がいる可能性がある。新しい人を西区に取り込むことより、今西区に住んでいる人たちがより住みやすくなる環境づくりが必要であると感じる。そのために、第一に、家族の世話で十分な学生生活を送ることができない人たちの支援をしてほしい。</li> <li>・子ども・若い世代が早くから「ケアマネージャー、介護保険、障がい者雇用」などの制度や、「社会福祉協議会、民生委員、子ども食堂のような社会資源があること」に気づけるような事業があればよいと考える。孤立しない地域づくりにつながる。</li> </ul> | 健康福祉課        |
| 5    | 子育て支援                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを産む夫婦の減少、結婚をしない男女の増加をうけ、子育て世代により手厚い補助を出す施策を提案してもらいたい。</li> </ul>   |              |
| 6    | 支え合いの地域づくり(近隣住民にスポットをあてた) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に居住している一人ひとりの住民が社会とかかわり・地域とかかわり・人とかかわりながら心豊かに幸せに生活できる社会であってほしい。かつては社会の在り方、人々の生き方、余暇時間の過ごし方等、人々の生活が地域にあったように思うが、情報化社会や個人情報の禁止等により人々に関わりなくとも生活できる社会となったような気がする。集団から個の社会になっていくような気がしており、隣近所の人でさえもわからない寂しい社会になることを危惧する。地域の伝統行事・子ども会行事・近隣どうしの声掛けなど、かつて盛んであった世代間交流などにより、地域の中で生活している喜び、住んでよかったと感じる地域づくりが必要だと考える。</li> </ul>  |              |
| 7    | 支え合い                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>支え合いの大切さ普及事業の取り組みを深化させ、より実効性の高いアクションプランへとつなげる(経年的・段階的な取り組みとしたい)。</li> </ul>  | 健康福祉課<br>地域課 |

|    |                  |  |                       |
|----|------------------|--|-----------------------|
| 8  | 海岸沿いの魅力発信        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地化への取組み(経済振興) 夏のみ小針浜に臨時バスを運行(Qバスまたは有明線の一部バス)。</li> <li>・環境保全活動(教育含む、特にこども) 教育により海の課題と魅力を知ることにより地元愛が醸成され、将来的な市外流出抑制につながられる。</li> <li>・【夕日】夕日はアート。夕日自体をアートとして加えて夕日とセットになるアート作品展示(常設)。</li> <li>例:水と土の芸術祭(新潟市)、大地の芸術祭(十日町市)、「What's Niigata」モニュメントを海岸にも設置、アートフェスティバルを小針浜(ゆうやけこぼり)で実施、夕日コンサートの複数回のフェス化(なぎさのふれあい広場を活用)、新潟三大フェス化(湯沢フジロックフェス、長岡岡百票フェスと合わせて)</li> <li>【砂浜】新潟市は日本一の砂浜。特に西区は長く広大な砂浜を有する特色のある地域なので砂浜+保安林を活かした事業が行われると良い。</li> </ul>   | 地域課<br>区民生活課<br>農政商工課 |
| 9  | 商店街の衰退           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街の衰退は全国の地方都市の宿命である。内野も四ツ角の商店の中でシャッター化が進んでいる。上記の若年層の地域参加と運動して、若者が集まることができる拠点づくりに力を入れたい。「西区の風景」選出をきっかけに、人が集まり、活性化につながる活動に結びつけなければ。</li> <li>・農政との事業(区づくり)連携。効果的な事業と継続性が図られる。(農政区づくり事業に参加)</li> <li>・地域課題は山積しているが、企画運営に従事する人が少ない。結論賛成であるが、自分は関りたくない人が多い。担い手不足の解決にしても地域貢献する意欲がある住民が少ない。私たちの課題であるが、早急に具体的対応を要する。(研修会などを開催しても集まる人が少ない)</li> <li>・西区八景が決まったらそれを説明するサインボード(看板)を整備してほしい。</li> <li>(説明文は地元自治会などに依頼すれば、検討会などで地域が活性化する)</li> </ul>   | 地域課<br>農政商工課          |
| 10 | 担い手不足(農村地)       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農村地では後継者が少なく高齢者が多い。後継者たちは農業だけでは生活が支えきれず、仕事・教育・生活など便利なところへ移動してしまう。交通の便も悪く、毎日の病院や買い物と思ってもバスも乗り換えが必要であり、免許の返納などもいわれているが、返納すると動くこともできないため、若い人がたよりである。魅力ある地域活動があれば活動に参加し、地域に残ってくれるのではないかと。</li> </ul>   | 農政商工課                 |
| 11 | 花と緑のある街路樹づくり推進事業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道、県道、市道など植栽可能な場所に花や樹木の植栽を地域住民、行政で実施する。豊かな心を育み、歩いてみたい、行ってみたい町づくり、町の価値づくり(付加価値)を創出する。</li> </ul>  | 建設課                   |
| 12 | 担い手・若年層の地域参加     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に一度の草刈りか夏祭りぐらいしか交流がない。中・青年が関わりやすいようなゆるやかな集まり、子育てや防犯、防災時の声掛けにつながるようなもの(例:花見の時期のイベント、(新年度すぐ)、景観を生かした飲食(農業支援)、学校と住民のつながり(防犯))があるとよい。年に3~4回、有志や企業も含めてふれ合えるイベントがあればいい。将来的に祭りや地域の語りべ、子ども食堂、インフラ保全など人材育成につなげていく。</li> <li>・地元(内野)でいくつかのサークルに参加しているが、どこも若者たちの参加が少なく、頭を悩ませている。新潟大学も近いので何とか若年層も参加できる環境を作らねばと考えている。(新大生は卒業すると内野を離れてしまうのでなかなか活動が定着しない)</li> <li>・高齢化は進むが現在も参加者は多く、若年層の地域参加により持続可能となる。</li> <li>・若い人達の積極的な地域活動への参加を希望する。</li> <li>・地域の活動には、一部の役員のみが中心で動いているが若手にも参加してほしい。どうやって活動に参加してもらえるか考える必要がある。</li> <li>・自治会、PTA役員、コミュニティ協議会、防犯組合などあらゆる団体で後任・担い手がいない。高齢化が進む中このまま放置はできず、特効薬はすぐに見い出せないと思うが、少しでも前進させるようにしなければならない。</li> <li>・自身は50代だが、自治会(西区ではない)や自治協議会とほとんど関わりがなかった。マンション住まいということもあり、その中での交流はある程度あるがそれ以外で地域との関わりはほとんどなく、それも子どもが成長すると少してきたつながりも無くなっていく。大学生などは一時的な西区の賑わいで仕方ないが、20代半ばから30代くらいまでの西区に暮らす若年層を区づくりの活動に取り込んでいくようにして、循環していくような仕組みを作っていくことができればよいのではないかと。例として「子育て支援」は若年層にアピールできるし、地域参加のきっかけにもなると思う。</li> </ul> | 地域課                   |
| 13 | 地域の居場所、おしゃべり処    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・そこに住んでいる人たちが立ち寄れる場所の提供ができたらいいと思う。例えばオレンジロードの草刈りを通して地域の人とつながったり、若い人たちの参加、それが地域の担い手不足の解消につながるなど。一斉クリーンデーの実施で地域事業への参加意識向上。</li> <li>住みよい街→きれいな街(クリーンデーの実施)→子育てしやすい街→住みたい街へと。自分達で美しくした街に愛着を感じてもらおう。</li> </ul>   |                       |
| 14 | 魅力発信             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然、住環境、特産品、農・学融合、利便性などを織り交ぜて西区の素晴らしさを若者男女輝く区民より紹介してもらおう。子育て世代への終の棲家としての誘致、食の魅力、学生の活躍する訪れたい西区をアピールする。</li> <li>・西区の魅力を紹介したマップを作成し、区民に西区の魅力をもっと知ってほしい。西区以外の人からも西区に住みたいと思ってもらいたい。内容は単に魅力紹介だけではなく、防災、医療、子育て支援、各相談窓口、区が取り組んでいる事業など総合的に網羅するものにする。</li> </ul>   |                       |
| 15 | スポーツ             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナによる高齢者・成人の体力低下が深刻であり、ラジオ体操など定期的な運動習慣を支援する取組が必要。</li> </ul>  |                       |
| 16 | 大学、短期大学との連携      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・西区には大学(新潟大学、新潟国際情報大学、新潟工業短期大学など)があり、多くの教員、学生が居住したり、通ったりしている。現在、坂井輪地区では新潟大学の学生が地域に入り込み連携し事業を行っているが、もっと教員、学生、大学施設といった資源を活用した取組ができないだろうか。</li> </ul>  |                       |

|    |                 |   |       |
|----|-----------------|---|-------|
| 17 | 西区内の地域活動調査・広報事業 | <p>・西区は新潟市内でも生活利便性が高く、教育や居住環境が整っており、住み良い地域であると感じている。利便性だけでなく、区民自身による地域を支える多様な活動が行われていることも安心して暮らせる地域であることの要因の一つであり、加速化する人口減少・超高齢化社会において地域活動はますます重要である。しかし、地域活動の担い手不足は各地域で課題となっており、解消されていない。担い手が確保できていなかったり地域活動への参加が進まない理由としては「地域活動が知られていない」ことが挙げられるとともに、「知ること」が参加・参画を促す一歩と考える。地域活動を行う団体自らが周知の取り組みを行うには、人材不足や多様な広報手段への対応に限界もあり、やりたくてもできない状況もある。したがって、15コミ協のエリアごとに、エリア内で行われている地域活動や団体を調査して広報用に情報を整理し、インターネットおよび紙媒体で継続的に広報を行うしくみをつくる事業を提案する。</p> <p>①地域活動の調査(コミ協、自治会・町内会、各分野の市民活動、産業系のイベントや若者など任意グループの取り組みなど)<br/> ②広報用の情報整理・効果的な広報方法の検討<br/> ③冊子またはリーフレットの作成<br/> ④地域活動の情報発信ポータルサイトの開設と運営のしくみづくり</p> | 地域課   |
| 18 | 地域の伝統行事         | 地域の伝統行事(まつりなど)の復活を望む。   |       |
| 19 | 担い手不足(農村地)      | ・農村地では後継者が少なく高齢者が多い。後継者たちは農業だけでは生活が支えきれず、仕事・教育・生活など便利なところへ移動してしまう。交通の便も悪く、毎日の病院や買い物と思ってもバスも乗り換えが必要であり、免許の返納などもいわれているが、返納すると動くこともできないため、若い人がたよりである。魅力ある地域活動があれば活動に参加し、地域に残ってくれるのではないか。   | 農政商工課 |